

# 大学文書館へ 行こう

## 第1回 「大学文書館とは？」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



大学文書館の建物外観（クラーク会館の西隣り）

### 大学文書館という所

今回から始まる連載では、大学文書館が所蔵する資料を紹介し、資料を通して大学の歴史を散策したいと思います。まずその前に、「大学文書館」とは、何をする所でしょうか。少々お堅い説明をするので、「北海道大学の歴史に関する各種資料を収集・整理・保存・公開し、大学の歴史について調査・研究する」機関ということになります。こうした機関は、比較的長い歴史を持つ他の国立大学も設置しています。名称は様々です。「大学文書館」を名乗るのは他に京都・九州大学です。東京・広島大学は「文書館」、東北大学は「史料館」、金沢大学



最も古い文書資料「壬申日誌」  
(明治五年二月十七日から始まる学校日誌)

は「資料館」、大阪・筑波大学は「アーカイブズ」といった具合です。私立大学には「立教学院史料センター」、「近畿大学建学史料室」、「慶應義塾福澤研究センター」などの名称があります。こうした機関を「大学アーカイブズ」と総称しています。近年、よく耳にする「アーカ

イブズ (archives)とは、様々な媒体により保存された記録そのもの、あるいは、そうした記録を集積・保管する場所を示す用語です。大学アーカイブズは、個々の大学の中での役割・機能は様々ですが、大学の歴史や歴史的な資料を仕事の中心に据えている機関と言えます。

### 「歴史的な資料」の柱

では、大学文書館が所蔵している「歴史的な資料」とはどんなものでしょうか。「大学文書館」という名称から、文書資料（紙に文字で記録した資料）が中心であることは想像に難くないと思います。

中でも柱は、大学運営のために日々、作成・取得している事務文書です。例えば、会議の議事録、国・自治体の機関や他大学・学校との往復文書、学内部署間の往来文書、教職員の人事記録、学籍簿などの学生在籍記録、予算執行や経理手続きの文書、建物の設計・管理図面、各種帳簿類などです。大学の公的な活動を記録した資料です。

### 「もんじょ」？「ぶんじょ」？

ちなみに「文書館」は「ぶんじょかん」と読みます。「ぶんじょ」？「ぶんじょ」？

昔前は「もんじょかん」と読むのが一般的でした。「もんじょ」読みは、和紙に筆墨の崩し字で書いた「古文書」(こもんじょ)を思い浮かべがちです。しかし「ぶんじょ」読みだと、例えば「公文書」(こぶんじょ)というように、現代に程近い、洋紙に活字を印字した文書もイメージし易くなります。「ぶんじょかん」と読むのは、こうした極近い時代の文書資料も対象としているためです。

とは言っても北海道大学の歴史は150年です。当然和紙・筆墨・崩し字のいわゆる「もんじょ」の類も所蔵しています。大体、1920年代半ば(昭和に入ること)までは筆墨書きの文書が中心ですが、次第に、洋紙に万年筆

やペンで書いた文書が目立ち始めます。1990年代初め(平成に入ったころ)には、手書き文書からワープロで作成・印字した文書へと切り替わっていきます。役所や会社の事務室でお馴染みの、青い表紙に2穴リングの通称「青ファイル」に綴った文書も登場します。大学文書館には、「もんじょ」から「ぶんじょ」へと姿を変えつつ、北海道大学150年の営為が息づいています。

こうした文書資料は、大学の歴史の骨格部分を記録しています。しかし、それだけでは150年の歴史を紡げません。皮膚・筋肉部分となる「別の資料」については、また次回に。



青ファイルの文書資料も並ぶ収蔵庫の書架